

「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」県民説明会 第3学区：柏会場

- 1 日 時：令和4年8月9日（火曜日）午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所：さわやかちば県民プラザ ホール
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」の説明と意見聴取
- 4 参加者：27名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

普通科及び普通系専門学科・コース

- Q 希望したコースの変更について、入学してからやっぱり違ったという生徒も出てくる。ケアをしてほしい。
- A 学科とコースの大きな違いは、学科では専門教科の25単位以上の取得という縛りがありますが、コースにはありません。大学受験に向けて主要教科を疎かにならないように取り組み、7限の時間や夏季休業などの長期休業を利用しています。向いていないと大学、専門学校に進んでから気づくのでは、時間や費用がかかってしまいます。事前に気づくことも大事なことだと考えます。
- Q 既設のコース対象校への支援について、設置されているコースのより一層の充実も検討していただきたい。新しいコースばかりでなく、既設のコース対象校への施設や人員配置なども力を入れてほしい。
- A 人気があって、予定以上に希望者がいるコースもあります。既存のコースについてもしっかりとフォローしていきます。要望があれば言っていきたいと思います。

職業系専門学科・コース

なし

総合学科

なし

社会のニーズに対応した教育

なし

全日制高校の適正規模・適正配置

- Q 統合の対象校について、「県立高校改革推進プラン」には10組程度の統合を見込んでいるとあるが、具体的にどこを指しているのか。
- A プランの中で10組程度の統合としています。約6000人中卒者数が減る中で、募集定員を減らすことで対応もしていきますが、対応しきれない部分も出てきます。どこをとというのは現在白紙であり、それぞれの地区の様子などを見て検討してまいります。今回のプログラムでは、適正規模・適正配置の考え方を示し、2次プログラム以降で具体的に示していきます。
- Q 人口が減少しない東葛地区でも統合はあるか。
- A この地区では人口の減り具合が少ないことは承知しています。しかし、募集定員を満たせていない学校もある状況です。状況を鑑みながら、適正規模・適正配置の考え方を踏まえ、検討してまい

ります。

- Q 1クラス40人を維持しようとするから統合という話になります。1クラス30人、25人という考え方もあると思うが、いかがか。少人数学級を作るとよいと思う。
- A 国の方針に基づき、高校では1学級40人で教員を配置しています。しかし、英語や数学等の授業で、習熟度でのクラス分けやT・T等は現在も行っている学校はあります。今後も続けていく所存です。
- Q 適正規模未満の職業系専門学科高校の在り方、この第3学区には専門学科は少なく、普通科が多い。専門学科の特色を無視して、倍率が低いから減らす、統合するという事はあるか。
- A 子どもたちの選択肢がなくなるように、学びのバランスは考えていきます。

全体

- Q 準備組織の在り方と再編実施年度までの周知の充実について、「第1次実施プログラム」には実施年度が6年度と記載されているが、その年度に入学した生徒からということか。
- A 船橋豊富高校は令和5年度から、土気高校は令和7年度から、その他の高校は令和6年度からとしています。その年に入学する1年生からスタートするという事になります。1年生の段階ではガイダンスの授業を実施し、2年生からコースが始まるというイメージを持っています。しかし、そこは臨機応変に、学校が最も良い形を準備委員会で検討してまいります。
- Q 様々なコースが増え、人材確保は大変ではないか。
- A コースを運営していくには適切な人材配置は必要です。今回のプランでは連携を1つのテーマとしています。外部講師を上手く使って、医療系であれば、病院などの現場に行き、理解することも大きな経験となります。外部の力を利用し、より良い在り方を考えてまいります。
- Q 実施年度まで猶予があまりない。中学校、生徒、保護者が高校に行きたいと高めるために、早めに情報を提供し、広報をしていけるとよい。
- A スタートに向けて今後準備委員会を立ち上げていきます。連携を取りながら、戦略的広報としてプランにあるように、中学生、保護者に対して広報してまいります。

その他

- Q 再編、統合について、今後中学生に選ばれる学校づくりをしてほしい。統合という形を取らなければいけないときもあると思うが、検討してほしい。
- A 御意見として承ります。今、県内各地で中高生の交流会を実施しており、高校に行ったらどんな学びがあったらいいのかというテーマを中高生が一緒になって話し合っています。その中で多いのがITを中心にプログラミングを学んでみたいとか、医療系や科学技術、政治学など、将来の職業につながる学びに興味を持っていることがわかりました。子どもたちの傾向等も踏まえながら、学科・コースを考えてまいります。

要望・感想

なし